

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

「 β -TG、PF-4用容器(19番)」 変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、下記項目の検体採取容器「 β -TG、PF-4用容器(容器番号：19番)」が製造販売中止されることに伴い、別メーカーが販売する代替容器に変更させていただきます。なお、検体提出量に変更はありませんが、容器変更により採血量が2.7mLに変更となります。

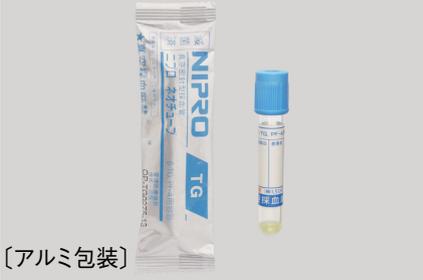
取り急ぎご案内いたしますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

対象項目／変更内容

- [01324] β -トロンボグロブリン(β -TG)
- [01348] 血小板第4因子(PF-4)
- [05263] トランスフォーミング増殖因子- β 1(TGF- β 1)

変更内容	新	旧
容器名称	β -TG、PF-4用容器 [19番]	
採取容器	 [アルミ包装]	
採血量	2.7mL	4.5mL
添加剤	テオフィリン、アデノシン、ジピリダモール、クエン酸、クエン酸Na	同左
保管方法	常温・遮光	冷蔵・遮光
有効期間	容器および外袋表示	同左

変更期日

- 令和2年11月2日(月)受付日分より

※上記期日以降も旧容器をお使いいただけますが、旧容器の有効期限は令和2年11月30日(月)となります。



β-TG、PF-4用容器／採血方法と変更点

β-トロンボグロブリン(β-TG)、血小板第4因子(PF-4)およびトランスフォーミング増殖因子-β1(TGF-β1)をご依頼の際は、必ず指定容器(容器番号:19番)をご使用ください。なお、容器変更により採血量／血液4.5mLから2.7mLに変更となりますが、乏血小板血漿の検体提出量に変更はございません。

採血量と検体提出量

- [01324] β-トロンボグロブリン(β-TG)
- [01348] 血小板第4因子(PF-4)

変更内容	新	旧
採血量	血液 2.7mL [容器番号:19番]	血液 4.5mL
検体提出量	乏血小板血漿 0.5mL [容器番号:02番]	同左

- [05263] トランスフォーミング増殖因子-β1(TGF-β1)

変更内容	新	旧
採血量	血液 2.7mL [容器番号:19番]	血液 4.5mL
検体提出量	乏血小板血漿 0.6mL [容器番号:02番]	同左

採血方法と変更点

(総合検査案内/155頁より)

β-トロンボグロブリン(β-TG)、血小板第4因子(PF-4)の採血方法

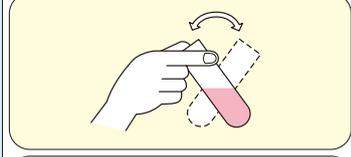
操作を2分以内に行う



4.5mL
↓
(変更後)
2.7mL

20ゲージ(19~23ゲージ)の針を用いたポリプロピレン注射器により、(組織から組織因子の混入を避けるため)2シリンジ法で初めの血液2mLを捨て、次の血液4.5mLを採取して下さい。真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないで下さい。また、できれば止血帯も使用しないで下さい。10mL以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取して下さい。

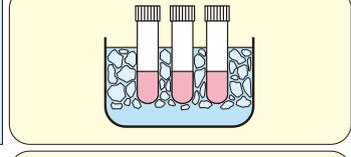
操作を2分以内に行う



予めキャップを開け冷却しておいた専用容器に採取した血液4.5mLを移し、ゆっくり2~3回反転混合して下さい。指定のサンプリングチューブ以外は使用しないで下さい。サンプリングチューブは振とうさせないで下さい。

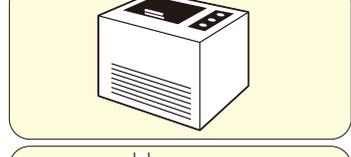
採血量を4.5mL→2.7mLに変更
(検体提出量は変更なし)

操作を2分以内に行う



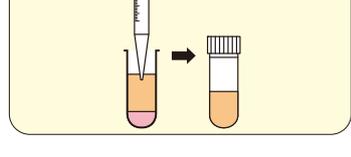
採血管を速やかに砕氷と水の入ったラックに戻し、冷却して下さい。砕氷水の水面よりチューブ中の血液の液面が下になるようにして下さい。角氷は使用しないで下さい。

操作を2分以内に行う



砕氷水に少なくとも15分間静置後、採取血液を2,500×gで20分間、2~8℃で遠心分離して下さい。(下表に2,500×gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。)
1時間以内に必ず冷却下で遠心分離して下さい。

操作を2分以内に行う



上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで0.5mL*検体容器へ採取して下さい。検体は必ずプラスチック製試験管に入れて凍結保存して下さい。(1ヶ月安定)
血餅に近い部分よりの採取は絶対に避けて下さい。

*TGF-β1は0.6mL